



## 空き時間の使い方

3年生になって、空き時間が出る生徒も多くなりました。高校3年生は「受験生」ですから、「授業がないから、勉強する」というのでは話になりません。学校の演習授業をいっぱいとうが、予備校に通おうが、文理問わず、自分でそれをものにし、自分で問題を解かない限り、力になっていきません。

不思議な話のように思えるかもしれませんが、「授業がわかりやすい」と評判の先生の授業を聞いている生徒達が、一向に模擬試験の成績があがらないということがありました。もちろん、教員の私たちとしては「わかりやすい」などという言葉に満足せず、「成績があがる」授業をしなければいけないのはもっともなことです。ここではそれを棚にあげて、生徒の皆さんの問題として考えてください。この「わかりやすい」が曲者ですね。生徒達は授業だけで「わかった」気になった、あるいはその場だけ「わかった」のです。入試の会場に、その先生がいるわけではありませんから、自力で問題を解くということを怠ったのです。もちろん、教員の私たちは、本当の力をつける努力をするしかありませんが、それは、君たち自身に、身になるように学習してもらい、その方法を考える、仕掛けを考えるだけなのです。

本題に戻りましょう。空き時間があることは悪いことではありません。その時間に、自分の身になるような学習を展開することが大事なのです。では、みなさんは空き時間がうまく使えているのでしょうか。

### 5・6時間目が空いている…

5・6時間目が空いている人も多いでしょう。さて、君たちはどう時間を使っていますか。そもそも、どうして授業をとらなかつたのでしょうか。もちろん、「使わない科目だから」という人もいるでしょうが、「使う科目の演習はあるけれど、あえてとらなかつた」という人も多はずです。もちろん、「そこまで考えていなかった」という人も多と思います。結果としてとらなかつたわけですから、事態は一緒です。「あえてとらなかつた」のはなぜでしょうか。それは「一人でもやれるから」「自分の方が効率がいいから」ということだったはず。もちろん「予備校に行くから」という理由でも構いませんが、すぐ予備校に行って授業を受けているならともかくその講義まで時間があるなら、前者の二つの理由になるはず。さあ、その理由に今のあなたはどうか答えますか。

HRが終わり、昼休み→ばたばたするのもしやだし、のんびりしよう→友達と話していたら、あつという間に14時…

なんていう人はいませんか。そんなことなら、授業をとっておけばよかったのではないですか。そうです。まず、時間割通りに動くことが大事です。そのためには何が欠けているのでしょうか。

### 「場所」を考えよう。

そもそも、この人の問題点は場所にある気がしてなりません。もし、この人が教室にいたなら、授業が始まる雰囲気を、廊下越しに感じ取ったに違いありません。そうすれば、多少なりとも、学習の雰囲気に自らが入り込んだはず。大きな問題点は、5時間目の始業を意識することなく、カフェテリアに居続けたことではないのでしょうか。5時間目がある友達と同時に、

教室に戻ってきていけば、やらなければいけない雰囲気に入ったはずで。

このように、場所は重要な問題です。たとえば、塾の自習室の方が学習できるなら、真っ先に塾の自習室に向かえばいいだけの話です。では、塾の自習室はなぜ集中できるのでしょうか。問題点は3つです。

- ① 塾には友達がないこと 言い換えれば、学校には友達がいるということです。これが問題だとすれば、友達のいない環境を自らつくる必要があるということです。
- ② 塾には勉強する雰囲気があること 言い換えれば、学校には勉強する雰囲気がないということです。こうだとすれば大きな問題です。「受験はチーム戦」といいますが、塾以上に学校こそがみんながガリガリやっている場であるべきです。(ただし、面談の様子から伺うに、学校でも友達が急にやり出していて焦っているということですから、深刻な状況ではなさそうですね)
- ③ 家に行くのだらけてしまうということ 家がだめだから家以外の場所ということでしょうか。

さて、問題点を整理しましょう。①が問題ならば、まず、学校がだめだということです。できるだけ早く学校を離れる、もしくはできるだけ一人の場所を見つけることです。本校は自習室が充実しているとは言い難い状況ですが、逆にいえば、一人の場所を見つけることは難しくありません。ここでいう「一人」とは「友達がないこと」ですから、各フロアの演習室、自習スペース、教員室前など、それなりの場所を見つけられますし、塾に行っていないなら、図書館をはじめ、受験勉強に向く場所はまだまだあるはずで。

②が問題だとすれば、まずは全体の雰囲気が重要です。もちろん、塾でうまくいくなら塾でがんばってもらう必要がありますが、学校としては、学校こそが塾以上に切磋琢磨の場であってほしいと感じます。学校のメリットは先生方がいることですから、まずは、要約、英作文、記述、論述などで先生を利用しながらやる気を高めるのはどうでしょうか。

最後が問題であるなら、まずは「家に帰らないこと」が重要です。それはむしろ、「学校にいる」ことが重要なはずで。

したがって、①～③の原因の全てが問題なのか、一部なのかによって、自分のとるべき方策が決まりそうです。あなたはどこで学習しますか。

### 友達との決まりを作る

さきほどの①や②が問題だとすると、仮にそれがネガティブな意味でなかったとしても、学校としては、学校自体を塾にも負けない学習の場にしたいところです。となると、どうしても必要になるのが、「友達」としての役割です。

×「友達がいるとつい気がゆるんでしまう」

○「友達がいるから、勉強に集中できる」

にしなければいけません。では、そのために何が必要でしょうか。それは友達間で決まりを作ることです。チーム30期としては、次の決まりを推奨します。

- ① 演習室内では、雑談禁止

まず、演習室内で雑談をしないことは鉄則です。予備校の自習室もそうですが、雑談をするなら、外、すなわち廊下に出ること。教室はいつでも勉強の場所。場所によるルール管理は大原則です。

- ② 勉強時間を決め、その枠内では雑談しない

とはいえ、友達がいる時に、自分だけ休憩をとるのでは、友達がいる意味がありません。だとすれば、時間割を決めるのがいいでしょう。単純なのは、学校の時間割と同様にする事、たとえば、放課後であっても、15:25～16:15が勉強、次が休み、と遅れて入室しても、この時間に合わせて管理しましょう。もし、50分もたない(受験生としてはやや困りものですが)のなら、勉強20分+休憩10分+勉強20分の50分サイクルは崩さず、休憩時間がすぎれば入室する、という管理がよいと思います。この間は、仮に勉強の質問であっても、友達には話しかけないというルールが必要です。

- ③ 携帯メールのやりとりの回数と時間を設定する

携帯メールは、現代の受験生において最大の敵です。したがって、次のルールを適用しましょう。

### ルール1 「メールの返信は最大3回まで」

この程度のやりとりでも10分は無駄にします。切りなく返信し続けるのは論外。返信が来なくなるのは冷たいではありません。チーム30期のルールだからです。すぱっと切りましょう。恨むなら、このルールを恨んでください。ルール憎んで、人を憎まず、です。

### ルール2 「毎時15分～25分の間以外は禁止」

チーム30期としては、皆がこのリズムで学習していますから、これ以外の時間にメールするのを禁止します。例外として、22時15分以降を認めますが、この例外規定を適用するためには、「相手の事前許可」を必須とします。その人が、それ以降の時間について、学習をしていないことを確認した上で行いましょう。面談を見ている限り、22時ぐらいまでは、ほぼ皆が学習モードになっています。ですから、ここまでは、例外規定は認めません。「事前許可」なく来たメールについては、「返信しない」「翌日に返信する」ことになっても恨まないでください。

## チーム30期 鉄の掟 FIVE

- その1 放課後、空き時間の教室、演習室では友達との会話禁止。  
友達との会話は勉強のことでも廊下で！
- その2 午後は、毎時15分～25分が休み時間。質問であっても、原則この時間に！
- その3 メール返信は3回まで。それ以上の返信は禁止。
- その4 メールチェックも22時15分までは、毎時15分～25分に限る
- その5 22時25分以降も、相手の学習計画を確認せずメールすることの禁止。

# 朝活のススメ

社会人向けのビジネス本を見ると、「朝活」という言葉がよくでてきます。朝の時間を効率的に使うことを目的とする言葉です。

朝、早起きをして、その時間を有効に使うだけでなく、やらなければいけないことを早めに終わらせ、今日やることを確認していくことで、気持ちの余裕が生まれ、結果として自分の時間をしっかり持つことにもつながります。

面談週間を終えて、3組では平均平日で予備校での講義を受ける時間をのぞき4時間程度、休日では6時間程度の学習時間がとれているようです。もちろん、文系は理系に比べ、私立3教科型の生徒が多いですから、空き時間が多くあることも影響しているとは思いますが。

さて、こうした数字を前にして、国公立型で授業も午後全部あり、まだクラブ活動が毎日続いていく君はどう考えればいいのでしょうか。「クラブを引退したら…」という気持ちはわかります。クラブに全力を傾けなければいけないのもわかります。しかし、だからこそ、少ない時間の中で、国公立7科目をしっかり勉強しなければいけないはずです。

クラブに入っていないある生徒の1日です。

朝は7:00に起床、家を8:00に出ています。学校につくのは8:40です。もうすぐにHRが始まります。学校は授業が終わるとすぐ出て塾の自習室に向かいます。塾の間に夕飯も食べ、23:50に帰宅。かなりの時間勉強していることがわかります。就寝は25:30です。

一見、順調に学習しているように見える、この生徒の学習に集中できない要因は「眠気」だそうです。つまり、特に学校の授業、多くは午前中にあるわけですが、眠くて集中できないのです。これはある意味で本末転倒です。アドバイスとしては、塾をでるのを2時間程度早め、24:00には就寝を目指します。その分、1時間起床を早め、家を7:00に出る。その分、学校で学習をする。こうしたサイクルを作り、午前中の「眠気」対策をするのはどうでしょうか。

今度はクラブに入っているある生徒です。塾にも通っていて一定の講義数をとっているため、

なかなか自分の学習時間が確保できません。国公立型なので、1週間の間に全科目やるという時間が確保しきれないようです。

起床は6:30、家を7:30に出発、学校には8:30につきます。国立型なので空き時間もほとんどなく、クラブ活動に突入。18:45の最終バスで塾に向かいます。20:00~22:30ぐらいまで、講義を含めて学習。就寝時間は疲れていることもあり、24:00前ぐらい。休日もクラブが1日あることが多いそうです。一日2時間30分程度の学習の中に、講義も含まれていますから、授業時間以外で1週間に全科目取り組むことは確かに難しい状況にあります。しかし、その2時間30分が優先順位の高い科目に取り組んでいるなら、捻出できた時間は、取り組めていない主要教科に回すことができます。というより、なんとか捻出して全科目を少しでも取り組む必要があるでしょう。家ではなかなか集中できないので他でやりたいけれど、塾はしまってしまう。また、疲れてすぐ寝てしまうことは仕方のないことです。むしろ遅くても24時前に寝るというのはリズムとして悪くありません。睡眠は6時間程度確保できれば十分ですから、30分早めて6:00起床がよいでしょう。それでも学校到着が8:00になりますから、実は45分確保できます。学校に10分前、15分前についても、学習しようとはなかなか思いませんから、時間は0分かもしれませんが、30分早めると、もともとの余裕と合わせて、45分生まれます。1週間で4時間30分。もともと、休日の学習時間には甘さがあるようなので、週に7時間程度の学習時間増が見込めます。この時間を、勉強できていない主要科目にあてれば、2科目で3時間ずつです。センターのみの理科はクラブを引退してからと考えれば、ずいぶん学習状況は改善できそうです。

いかがでしょうか。自分の都合に合わせて、「あの科目は夏休みに…」などと計画もしないで考えていると痛い目にあいます。自分の生活サイクルを見直し、朝の時間を確保しておきましょう。

ちなみに、脳科学的にも、朝、脳の記憶が整理され、食事後1時間30分~2時間後ぐらいは血糖値もあがり、脳のゴールデンタイムになっています。起床が7時で朝ごはんを食べにくる、もしくは8時過ぎに食べているようでは、1時間目、場合によっては2時間目の授業まで捨てています。こんなにもったいないことはありません。保護者の方には、朝ごはんの指導をお願いしたいものです。

また、脳の活動には糖分(ブドウ糖)が不可欠ですが、朝ごはんの糖分は、だいたい2時間目終了時には、切れてしまいます。この休み時間でブドウ糖(角砂糖のようなものです)をひとつほおぼると、脳にエネルギーが補給されますので、こうしたものも鞆に入れておくといよいでしょう。ただし、マナー違反、特に歩きながら、もちろん授業中は厳禁です。お菓子を広げることのないように、勘違いをしないでください。

## 進路資料室の使い方について

進路資料室には、通称赤本や、大学案内(合格最低点や出題範囲なども確認できます)、学習ビデオなども置いてあります。是非しっかり活用してください。しかし、この学年だけでなく、後輩も含め、ずっと使っていく場所ですので、以下のことを徹底しましょう。

- ① 入室する際は、先に校務センターに行き、校務センター入り口にある入室表に氏名を記入する。
- ② その際、鍵を持ち出す時には、鍵の管理者名を記入し、責任を持って管理する。勝手に受け渡さず、入室表に必ず両者が記入する。
- ③ 貸し出しできる資料については、貸し出し表に記入し、責任を持って期日までに返却する。
- ④ 使う時だけ借りること。使わない日があるなら、借りない、またはいったん返却する。

以上のことを守り、後輩達に、先輩達から受け継いだ財産を、減らさずに増やして、卒業しましょう!!

# 夏期講習について

各予備校の夏期講習の申し込み期間が近づいてきました。学校での夏期講習の申し込みも間もなく始まります。夏期講習について、簡単に説明しますので、参考にしてください。

## ① たまには外の空気を吸おう！

特に学校中心で学習している生徒は、一つでも構わないので、予備校の夏期講習を受けてみると大きな刺激を受けます。学校で自分が軽視しているものが重要だったり、学校の予習、復習では足りないものが見えたり、何より学校とは違う仲間、雰囲気を楽しむことは重要です。

## ② とりすぎに注意！受験勉強は自分でするもの

前回も書きましたが、夏期講習をとることによって、本来、こなすべき課題が夏に終わらないようでは本末転倒です。どんなにとってもかまいませんが、夏期講習を含め、夏に自分がやるべきことが、うまく時間配分できるかは必ず確認してください。

## ③ 夏期講習で「必要な科目」は何？

今の話にも通じますが、重要科目を夏期講習でとり、家でも重要科目ばかりやっている…という結果、夏休みに「〇〇はほとんどやりませんでした」というようでは合格はおぼつかないですね。逆に苦手科目をとって、重要科目がおざなりになっているというのも困りものです。また、ひとりでもできること、学校でもじゅうぶんやっていること、をわざわざ講習でとるのはもったいないものです。できれば、次の項目でチェックしてください。

・必要なのに、出遅れている科目…「基礎を固めてから…」などといわずしっかりとりましょう。

・合格に大きなウェイトを占める科目…文系では英・社、理系では数・理でしょうか。

・授業ではなかなかない分野…科目を問わず、論述、記述、作文などが多いはずです。

## ④ 自分に必要な「レベル」は？

予備校、というか世間一般では、科目名は強気です。すなわち、ハイレベル（私立なら早慶、国立なら東大、東工、一橋）と標準（MARCH、千葉、筑波）です。勉強すべき範囲が変わるわけではありませんから、おおよそ二つに分けられるだけです。その時、特に私立標準は、本当に全国の真ん中から下が全ているわけですから、弱気になる必要がありません。まして、「行けたらいいな」と思っているなら、特に緻密な作戦があるならまだしも、漠然と弱気になってはいけません。

## ⑤ 「人気講師」に惑わされるな

先輩に聞いた、参考書を書いている、などなど、「人気講師」はたくさんいます。しかし、人気がある＝自分に合う、とはかぎりません。人気が「笑える」という理由であることも多く、それを好む人の方が世の中には多いからです。参考書がわかりやすいからといって、授業がわかりやすいともかぎりません。しっかり見極めましょう。

## ⑥ 「学校」をうまく使え！

学校も夏休みは勉強場所としては静かで快適です。特に夏期講習期間は先生方もいますから、質問もしやすいでしょう。また、一人で勉強するのは大事なこととはいえ、誰とも話さないで、めげてしまうというのは論外。特に、勝手に外部の人を見て、「俺はだめだ」と思うのはもったいない。学校の夏期講習などもうまく使い、学校で知っている人に相談し、質問し、自分を励ますことも大切です。

学校の講座（昨年の例＝今年も間もなく発表します）

社会＝日本史、世界史、地理（センター）、現代社会、倫理

国語＝現代文（基礎・応用）、古文（基礎・応用）、古漢、センター国語（現古漢）（国立二次国語検討中）

英語＝国公立対策、理GMARCH、早慶上智

数学＝整数、センターⅠA、センターⅡB、数ⅠA、数ⅡB、数ⅢC応用、標準

理科＝物理ⅠⅡ、科学ⅠⅡ、生物（センター）、地学（センター）

※人数が少ない講座は開講されませんので注意してください。

# スタディサポート報告

震災の関係で実施時期が遅れ、ようやく結果が戻ってきました。詳細な分析をしたいところですが、素早くフィードバックすることが重要と考え、ざっと見たところで気になる項目をあげてきたいと思います。

## 成績一覧は削除してあります。

成績は平均が、国数で減少、英語が維持となっています。比較的アドバンテージのあった英語が高い水準で維持できているのはすばらしいことです。今後の受験戦略を考える上でも、英語でアドバンテージを持っていることは必須条件でしたので、担任団もホッと胸をなでおろしているところです。

残念ながら国数は下がってしまいました。それが響いて、国数英のSの人数も25名と減少しています。S1 東京大学、S2 京都、早慶、S3 東工・一橋、上智・ICUというランクが25名というのは、どう見るべきか難しい数字です。A以上が169人中106人と63%となっています。A3で埼玉、明治、中央、立教というラインですので、おおざっぱに見れば、本校の約2/3がMARCHレベル、1/2が千葉大理科大レベルという判定となっています。

問題は、勉強の軸を、英語からバランスよく他の教科に移せるかどうかでしょう。これまでも、難関大志望者は2年の冬から英語より数学、と伝えてきましたが、私大志望者も合わせて、理社も試験科目の配分が同様であることを肝に銘じなければなりません。文系であれば、勉強時間で配分すると、英→(=)(数→)社→国(古典+現代文)→センター科目ですが、理系であれば、数→理(2次私大科目)→英→理(センター科目)→古典→地理→現代文と言った順番でしょう。このあたりの順番が切り替わっていないとすると、今後の成績にカゲを落とすことになるでしょう。

### 科目ごとの研究

まずは、自宅での学習内容の質問です。宿題だけ、予習だけ…などの回答項目の中から、理想的な宿題・予習・復習に加え、自主的な学習をしていると答えた生徒のパーセンテージです。自宅での学習内容＝宿題・予習・復習と自主学習(%)

	A層	B層	C層	D層	国立 MARCH	難関大
現代文	20.0	5.1	7.4	1.6	1.5	3.4
古典	34.5	7.7	7.4	3.3	2.9	6.5
数学	20.0	16.5	11.3	5.8	9.4	16.2
英語	32.8	34.4	19.3	7.3	10.7	16.2

国語と英語に関しては、この理想的な答えの生徒が、難関大レベルと比べてもはるかに多いことがわかります。当然のことながら、この項目が成績にダイレクトに反映しているようで、他校の難関大合格者はともかく、本校に限っていえば、もっとも成績に関係する要素であることがはっきりしています。つまり、難関大、早慶上智に進学したいのなら、受験科目全てについて、宿題・予習・復習・自主学習を全てこなすことが大前提となるわけです。数学が他校データと比べてぱっとしませんが、成績にも反映されているようで、ここからも数学の家庭学習不足がはっきりと浮かびあがっています。

そのほかでは、D層に関して、「自宅では何もしない」と答えたものの割合が、現代文、古典、英語で際立っています。逆にいえば、学習を始めるだけでもC層へ近づくことが予想される状況です。

続いて学習方法についての質問です。

質問項目は上に＝単位%

	A層	B層	C層	D層	国立 MARCH	難関大
学習方法がわからない						
国語	14.5	21.8	25.3	21.3	38.4	37.0
数学	8.3	6.2	5.0	11.5	6.3	5.6
英語	9.8	7.8	8.4	12.7	13.1	10.8

この項目も比較的順調であることを示すデータです。国語に関しては、他校データが、40%

近く学習方法がわからないと答えるのに対し、比較的学習方法を理解していることがわかります。英語数学も合わせ、多いのは「計画を実行できない、または長続きしない」という項目で、「やることはわかっているけれど、やれない」というメンタル、もしくは生活習慣の改善、あるいは、「目標達成シートは書けるが、ノックシート、手帳の使用がなく実行できない」生徒像が浮かびあがります。

数学、英語のD層、特に数学では、「学習方法がわからない」が突出しています。本来、もっとも勉強方法としてはわかりやすい科目ですが、それを「わからない」と答えていることは、「家庭学習の必要性を認識していない」ということを表しているのでしょうか。理科と数学は、自分で問題集の問題を解かないかぎり、いくら授業を聞いても、いくら予備校に通ってもうまくいきません。特に数学のD層は、学習を「試験前のみやる」という答えも突出して多いのです。D層には反省が必要なデータです。

その他の気になるデータです。

	A層	B層	C層	D層	国立 MARCH	難関大
予習はしない						
古典	9.1	26.9	33.7	59.0	23.0	24.1
数学	66.7	58.8	65.0	57.7	52.9	47.2
宿題は完全にできず、復習に手が回らない						
数学	1.7	4.1	13.8	15.4	10.6	6.5
英語の予習での取り組み						
音読	18.0	7.8	3.6	7.3	2.1	2.7
訳を考える	27.9	17.8	15.7	12.7	38.0	38.0
辞書を引く	11.5	17.8	25.3	32.7	16.5	12.7
文脈の意味	16.4	17.8	18.1	9.1	15.9	16.5
文法調べ	1.6	5.6	4.8	3.6	1.8	2.1
本文写す	8.2	18.9	22.9	12.7	7.2	6.0

各教科の勉強方法などについて見えることをまとめましょう。

古典ですが、A層では「予習をしない生徒」が突出して少なく、D層では多くなっています。英語と同様の科目ですから、そもそも「予習をしない」ようでは成績向上は見込めないことがわかりますし、英語に比べ甘く見ている生徒が多いことが気になります。

数学は確かに復習型科目ですので、予習をする生徒が少なくなるのは仕方のないことかもしれませんが、2年次にもお伝えした通り、東大合格者は、「予習をしている」ことが多いのです。つまり、「難しい問題に主体的に取り組み一人で考える姿勢」のあるなしがここにあらわれるようです。予備校頼みの生徒が、全体に多くなっているデータもありますので、それと合わせて心配な傾向です。一方、C・D層では、宿題さえできていないようですから、成績が沈むのも当然といったところでしょう。

英語の予習の質問を見ると、A層では、①音読②辞書をただひかず、文脈の意味、そして訳を作るという傾向が見えます。しかしながら難関大と比べると訳を考えていないことが、長文読解などに響くのではないかと心配です。

C層については、①本文を写す②辞書を引く、ただし文脈で考えるところになると減少するようです。これは英語を勉強しようという気持ちはあるけれど、ルーティンで簡単にできる作業だけにとどまっており、自分の頭を使っていない、ということのようです。ただやるのではなく、考えることができるか、それが成績向上の鍵でしょう。

D層にいたっては、本文も写さず、辞書を引く、だけですから、教科書に電子辞書を使ってひいた単語訳を書き込んでいる姿が目につかびます。これでは成績向上はないでしょう。

## 生活習慣

まず、ここまでいくつかの生活習慣について、分析をしてきました。1年次では、「テレビゲーム」が成績をわけていることを論じました。2年次では、A層が「特に何もしない」ことが多いことをあげました。このあたりは確実に改善しているようで、一部「携帯電話」という答えがまんべんなく多いことが気にはなりますが、少なくともD層の携帯のやりすぎは改善に向

かっているようでほっとしました。

続いて、昨年は、起床時間が成績を分けていることを報告しました。出発時間が層別に違いがないことを考えると、早く起きて、朝ごはんをしっかり食べる、精神的なゆとりを持つ、ということが重要だと報告しました。

今年は、出発時間によって成績がきまっている傾向があります。昨年とは逆に朝ごはんは改善に向かったようで、成績層別の差はありません。下表をごらんください。

出発時間 単位%

	A層	B層	C層	D層	国立 MARCH	難関大
7時以前	52.1	41.5	34.2	34.3	51.8	40.1
7時30分	31.3	32.6	32.9	35.8	28.3	29.2
8時	16.7	23.6	28.2	22.4	27.5	26.2
8時30分	0.0	2.2	4.7	7.5	2.2	2.1

出発時間と成績に相関関係があることは本来考えにくいと思います。家が遠いことは絶対的な学習時間の確保に関してマイナスに働くことこそあれ、家の近い遠いが成績にリンクすることはないでしょう。

しかし、本学年では、朝の自習を奨励してきました。1年次はほぼ強制に近い物でしたが、2年次は、教員が教室に行って様子を見、環境を整えているとはいえ、生徒の意志に任せてきました。むろん、学年としては、本号の「朝活のススメ」のように、朝の登校、自習をおすすめています。

このデータは、そうした指導のもと、出発時間が動いたことを示すデータです。A層では7時以前に学校に向かう生徒が50%を越え、8時までに全ての生徒が家を出ています。83%の生徒が7時30分には家を出ているのです。それに対し、C層、D層では、早く家を出る生徒はわずか30%であり、8時以降に家を出る生徒が30%程度いることとなります。朝の学習時間か、それとも授業前の学習に向かう準備か、それとも話をきちんと聞く姿勢を持っていることのあらわれか、わかりませんが、非常に興味深い動きになりました。

最後に心配なデータと大変ありがたいデータをひとつずつ示します。

心配なのは、「第一志望校の対策」についてで、A層でも、「入試の概要を知っているが対策をしていない」生徒が多いことです。予備校に通っている生徒は、難関大合格者層と比べかなり多い状況になっています。そのこと自体がいけないわけではありませんが、言われた学習をそのままする状況になっていないでしょうか。自分の現状、志望校をよく考えて、自分で、自分にあつた学習を進めることが重要なのです。もういちど見つめ直してください。

ありがたいデータは、「勉強が楽しくやる気に満ちている」生徒がA層ではきわめて多く、「進路について保護者の受け止め方」の項目では、「自分の考えを十分に理解してくれている」という回答が38.4%と難関大を上回る数字になっています。保護者に支えられて生徒がやる気を持って学習に向かっていることがわかります。特にA層B層ではその回答が50%を越え（逆に言うと、C・D層はそれぞれ30%を切ってしまうのですが）、こうした保護者の支えが学習意欲につながっていることがよくわかります。今後ともよろしくお願いいたします。